

風音

「『自分はなぜここにいるか』が、私の生涯のテーマ。制作は、自己

確認、自己探しです」と話すのは、岡山市出身でオーストリア・ウィーン在住の造形作家梶浦徳雄さん(五二)の**写真**。このほど、岡山市内の企業の社屋の中庭に立体の新作を設置した。

作品は、木組みと外壁用モルタルで成形した家形の構造物など「**ma**」シリーズの三作。「オーストリアの農家が持つ、人が生きている雰囲気になって」と、



いずれも黒の鉛筆で表面を塗り、でこぼこした材質感を引き出した。また、中心をガラス

自己確認テーマ

周囲、時間の中で探す

板が貫いて二つに分断する形が、「こちらとこちら」、「生と死」など、見る者の思いを作品の根元的なテーマへ誘う。

「『**ma**』は『間』のこと。周囲や時間のつながりの中に自分の存在があると気付いて、十四年ほど前から取り組んでいます」と梶浦さん。

五月には、オーストリアの古城のギャラリーで、友人のオーストリア人画家マンフレッド・マクラさんと二人展を開催。城の持つ独特の空間の中、梶浦さんの造形作品とマクラさんの大西洋を描いた水彩画が響き合い好評だったという。来年は、京都の寺院、鳥取県の民家、倉敷市内のギャラリーでも計画、「日本の伝統的空間の中で作品がどう見えるか楽しみ」と意欲を見せる。